

文 教 福 祉 常 任 委 員 会 記 録

令和元年 11 月 22 日(金)午後1時 26 分～午後2時 11 分(9階 904 会議室)

○出席委員(9名)

委員 長	萩原 太郎
副委員長	沢井 和宏
委 員	山田 裕
委 員	斎藤 正臣
委 員	佐原 真紀
委 員	二階堂利枝
委 員	小野 京子
委 員	粕谷 悦功
委 員	半沢 正典

○欠席委員(なし)

○案 件

所管事務調査 「健都ふくしま」実現に向けた健康づくりの取り組みに関する調査

- (1) 当局説明について
- (2) 行政視察について
- (3) 参考人招致等について
- (4) その他

午後 1 時 26 分 開 議

(萩原太郎委員長) ただいまから文教福祉常任委員会を開会いたします。

初めに、所管事務調査について、当局説明についてを議題といたします。

前回の委員会におきまして、当局説明開催内容について協議、決定させていただきました。本日は、当局説明の開催日程について調整させていただきます。

当局説明の開催日程につきましては、12月定例会議閉会後の日程で、12月中に開催予定としておりました。つきましては、12月19日から12月26日木曜日の期間で開催したいと思います。

そうしまして、候補日といたしましては12月19日木曜日の午後、12月20日金曜日の午前、12月23日には皆さん研修がございますので、12月24日につきましては午前、午後というような予定としたいと思いますが、委員の皆様の日程をお伺いしたいと思います。

【この間協議】

(萩原太郎委員長) それでは、当局説明の開催日程につきましては、12月24日火曜日午後1時30分から開催いたします。

次に、行政視察についてを議題といたします。

行政視察につきましては、前回の委員会におきまして、視察日程を令和2年2月3日月曜日から2月7日金曜日の期間中の3日間で実施することといたしました。本日は、行政視察先についてご協議させていただきます。

お手元の資料1をごらんください。正副の案として合計6カ所の選定をいたしました。

そういたしまして、若干説明したいと思います。資料1—2、健康寿命の延伸というふうな資料がございます。これにつきましては、ページを開いてみますと、男性、女性というふうなことで、健康寿命につきましては山梨県が男性の場合は全国1位、女性の場合も2013年、そして2010年、2013年、2016年の平均値をとっても女性も全国一というふうになっておりますので、健康寿命につきましては山梨県の中の都市を選定したいというふうに考えました。

(粕谷悦功委員) 何歳なの、これ。健康寿命、山梨は。

(萩原太郎委員長) 数字書いてありますが、見づらいです。網かけしてあるようですから、72.52歳とか、この黒枠の中に数字が出ております。

(半沢正典委員) 平均値が一番右なのでしょう。

(萩原太郎委員長) はい。72.31歳と。よろしいですか。こちらの資料です。

(半沢正典委員) では、この年まで元気だということなのか。

(萩原太郎委員長) そのような統計が出ているということで、山梨県内を考えました。よろしいでしょうか。

それから、もう一つ、厚生労働省の資料、平均寿命の一覧表がございます。厚生労働省の資料です。こちらのほうをごらんください。これを見ていただきますと、都道府県別に見た平均余命というふうなことで、平均寿命というふうなことで出ております。男性のほうは全国平均では80.77歳、今まで男性のほうも長野県が1番だったのですが、今回につきましては滋賀県のほうに譲ったような形になりましたが、女性のほうでは長野県が全国1位というふうなことになっております。この平均寿命というふうな観点から、長野県の都市を見たいと、視察したいというふうな提案をさせていただきました。

あと、資料は後で見ただければというふうに思います。

資料1のA3、3のところ、次に3番目として静岡県浜松市というふうなことで、浜松市におきましては、参考事例として厚生労働省の大都市別の健康寿命3期連続男女とも1位というような数字

が出ておりましたので、浜松市も選定の中の一つというふうなことであります。

(粕谷悦功委員) 健康寿命でしょう。3期連続っていつだ、これ。健康寿命。

(萩原太郎委員長) 2010年、2013年、2016年というふうなのがこの横長のほうに書いてございます。こっちの横長の一番右。県としても高い数字を誇っていますし、市としても全国1位というふうな内容で、選定の一つとさせていただきます。

その裏のページも見ていただきたいと思います。ナンバーで4番、静岡県藤枝市です。藤枝市についても、主な特徴、こちらに書いておりますけれども、参考事例としましては、厚生労働省の第1回健康寿命をのぼそう！アワード優良賞というような賞をいただいている。それから、5番目の神奈川県大和市についても第4回の優良賞、6番目、愛知県東海市につきましても第1回健康寿命をのぼそう！アワードの優良賞というような実績があるというふうなことで選定の対象とさせていただきますが、受け入れ自治体の事情もございますので、その期間に受け入れできるかどうかというようなこともありますので、そこの中から選定させていただければというふうに思っております。

このような状況で、若干の資料も添えましたが、皆様のご意見を伺いたいと思います。何か特にご希望等ございますか。

(半沢正典委員) これは、資料1、2枚ありますけれども、パターン1とパターン2とあっていけばいいのですか。

(萩原太郎委員長) いえ、2枚ございますが……

(半沢正典委員) 要するにひとまず松本市以下3市で1つのパターン、静岡市以下3つでパターンということで、松本市と東海市と浜松市とか、そういうことではなくてということですよ、まずは。

(萩原太郎委員長) 先ほど言ったように、資料をつけておきましたように、長野県の松本市、そして山梨県甲府市は優先順位の高いところに置きたいなというふうに思っております。その中で、もう一つを浜松市、それから藤枝市、4、5、6の中で候補にしたいなというふうに思っていました。

(半沢正典委員) ごめんなさい。そういう意味でいいのですね。

(萩原太郎委員長) はい。松本市、甲府市を中心に、そのほかのところに打診して……

(半沢正典委員) プラス1ぐらいのところに。

(萩原太郎委員長) ええ。まずは浜松市を打診しまして、浜松市、また上のほうも受け入れていただけるかどうかはまたこれからのことなので。

(半沢正典委員) 済みません、勉強不足で。健康寿命をのぼそう！アワード優良賞というのは、それぞれ回数違うのですけれども、大体年に何都市ぐらい選ばれているような、はえある賞なのですか。わかる範囲で。というのは、20、30とかのやつと二、三しかないよというのはまたちょっとその賞の格が違うのでしょうから。福島市が最優良賞かもしれませんし。

(萩原太郎委員長) 福島市はそれを目指すとして、優秀賞が全国で1市、1つです。優良が5つの市というふうなことになっているようであります。

(半沢正典委員) 大したものなのですね。

(萩原太郎委員長) どうでしょうか、皆さんから。

(粕谷悦功委員) 藤枝市がおもしろいのではない、これ。

(萩原太郎委員長) 県としても非常に健康についての成績がいいところでありますので、市にとってもいいところだというふうに思います。そういうわけで、浜松市の前に藤枝市というふうなご希望があれば、最初に藤枝市のほうに依頼してみたいと思います。

(粕谷悦功委員) だから、これ視察案は、1、2は行きたいのでしょうか。

(萩原太郎委員長) はい。

(粕谷悦功委員) 3番目は、3、4、5、6から……

(萩原太郎委員長) はい、そうです。選ぶのです。

(粕谷悦功委員) どこかという、1つだけでいいのか。何か所ぐらい行くの、これ。

(萩原太郎委員長) はい。1つですね。行程的に。

(粕谷悦功委員) 内容は、藤枝市のほうがいいのではないか、これ。

(萩原太郎委員長) たくさんの主な特徴が書いてあります。

(粕谷悦功委員) いいのではないの。俺はそう思ったけれども、ほかの人、若い人たちどうなのだか。

(萩原太郎委員長) 皆さんからのご意見ございますか。藤枝市を先に打診して、藤枝市を……

(粕谷悦功委員) 面積が狭いのだよな、これ。だから、できるかもしれないだよな。

(半沢正典委員) 藤枝市はまだいいですよな。

(沢井和宏委員) 長野県と山梨県は、ある程度全体的な取り組みの中でやっているやつで、だからあともう一つは、私なんかは地域の具体的な取り組みのやつをもう一つ必要かなんと思って、この後ろの藤枝市とか、そういう名前を挙げてみたのですけれども。

(小野京子委員) 藤枝市でいいと思いますけれども。具体的に……

(沢井和宏委員) あと、福島市の規模、福島市との規模がなるべくなら同じぐらいのほうがわかりやすいのかなんていう思いがあって。

(小野京子委員) 具体的なのがいっぱい出ているので、藤枝市でもいいと思います。

(萩原太郎委員長) それでは、視察先につきましては、委員の皆様からのご意見を踏まえまして、本日出ました視察先の候補から、松本市、甲府市、そして藤枝市というふうなことで打診したいというふうに思いますが、視察先への打診結果によりましては、本日協議しました視察候補先以外となる場合もございますので、その際は正副委員長へ一任していただいてもよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) それでは、そのようにいたします。

次に、参考人招致についてを議題といたします。

参考人招致等の調査手法について協議させていただきたいと思います。調査の手法につきましては、

参考人招致、そして意見交換会、または現地調査といった手法がございますが、現地調査については現実的には調査はちょっと困難かというふうには思っております。

今般の調査テーマにおきましてどのような手法を実施するか、協議させていただきます。お手元に配付の資料2をごらんいただきたいと思っております。お手元の資料2ということで、参考人招致というふうなことになりますと、学識経験者から選ぶ。それから、その他、例えば福島県保健衛生協会、それから地域の健康づくりを推進する組織というようなこと。また、意見交換会としては、吾妻地区の健都ふくしま創造推進会等というふうなものがあるかというふうに思っております。

皆様からご意見お伺いしたいと思っております。

(齋藤正臣委員) この学識経験者で記載されている医大以外の短期大学等の学科が記載されておりますけれども、この3つというのは健康寿命延伸のための取り組みをやっているとか、教授なのかな、教授がそういったことに専門的な知見をお持ちの方がいらっしゃるということを前提にこれは記載されているのですか。

(萩原太郎委員長) そういうことです。

(齋藤正臣委員) それぞれ、簡単にですけれども、どういった取り組みをしているのでしょうか。

(萩原太郎委員長) ただ、大学の先生という、そちらのほうにも非常に特化しているといえますか、専門的な分野が多いのかなんていうふうなちょっと印象を持っております。一つ一つに得意分野があつて、例えば福島大学の教授でありますと、農芸化学、食品科学、あるいは食品機能学、分析化学というようなものが、ちょっとこのインターネット上でしか見れませんが。

(齋藤正臣委員) それはいいのですけれども、そういう分野の中で健康寿命延伸に関しての取り組みをなさっていたり、そういったことに対して知見をお持ちの方がそれぞれにいらっしゃるということですか、これは。

(萩原太郎委員長) これからそういう方を選定するというふうな中だという。

(齋藤正臣委員) そういうふうな方がいらっしゃるかどうかですよね。いらっしゃるのだったら選べると思うのですけれども。

(半沢正典委員) 今質問したように、直接我々のテーマであるところの健康寿命延伸についての専門的な知見を持っていただけるかという質問なのでしょう、今。

(齋藤正臣委員) はい、そうです。

(萩原太郎委員長) 学識経験者としてこういうふうな中から選定してはどうかというふうな内容で、ここの中の誰が……

(半沢正典委員) 要は余り関係ない人も含まれているということですね。

(粕谷悦功委員) こんな関係ないぞ、これ。福大とか聖母とか。医大だな、これ。

(齋藤正臣委員) 成分の部分はやっているかもしれないですけれども、おいしさの部分とか。

(半沢正典委員) だから、俺らのフィルターを通してやるしかないのだ。

(粕谷悦功委員) 医大、何なのだ、これ。健康増進センターは。これ何やっているの。県がやっているからな。だから、医大はそういうのかかわるのかい、これ。健康増進。

(萩原太郎委員長) 事前にいろいろと正副でも検討はしてみたのですが、例えば正副の案といえますか、いいのではないかというのは、保健衛生協会ということで、健康診断をしているというふうな中の実績、それからいろんな部分の成人病に対しても知見があるということ、そしてまた保健衛生協会の中に健康支援課というような部門があるようであります。健康支援課の中では、やはり成人病についての指導とか、そういうのもあるので、その辺の話を聞ければ、大変役に立つのかなんていうような思いではありました。

(粕谷悦功委員) 保健衛生協会ってどういう人が参考人で来るの。職員。

(萩原太郎委員長) 職員です。ここの中の組織図を見ますと、いろんな健康診査の部門ありますけれども、健診事業部の中に健康支援課というふうな部分がありますので、そこの中で健康支援係、看護係というような部門がありますから、そちらのほうのお話を聞くのは役に立つのかなんていうような思いでありました。それから、今までのずっと健診をやっている事業所なので、それぞれのデータも持っているのではないかなというふうには思っております。

(粕谷悦功委員) 結果データはあるけれども。

(半沢正典委員) 多分保健所の所長も、いろいろ各地で講演しているときに、今言った結果のデータとか、福島の傾向とか、多分説明していると思うので、そういう話だと保健所の所長でもいいのかなという感じがするのが1つと、余計なことで申しわけないです。目的が、食生活、運動習慣等を原因とする生活習慣病に起因する急性心筋梗塞や脳梗塞による死亡率が高いことから、こういう流れの中で健康寿命やるときは、その辺の多分分析も委員長報告に必ず入れなければいけないのだろうと思うのです。だから、何を言いたいかという、時期的にあれなのですか。要は市の中身を聞いた上で、改めて決めるというスタンスではもう遅いのですか。今決めなければいけない。要するに24日やりますよね。

(萩原太郎委員長) はい。

(半沢正典委員) 24日聞いて、それ、誰が来るのかわかりませんが、それの中で、ではこの辺やっぱり専門的な知見をちょっと聞いてみたいねと。多分この4つの中のどれだと思うのですがけれども、そういう形でも、申しわけないのですが、遅くないのかなんていう気はする。

(萩原太郎委員長) そうですね。参考人招致は1月を予定していますので、12月24日に……

(半沢正典委員) 1月では間に合わないか。それから決めては。

(粕谷悦功委員) 間に合わないな。

(半沢正典委員) 間に合わないですよ。

(沢井和宏委員) 12月末ですからね。

(半沢正典委員) では、やっぱり今決めなければいけないと。

(沢井和宏委員) だから、ある程度そういう健康推進に携わっている方のほうが、逆に言うと、医師よりも、もしかすると、保健衛生協会の上のほうの、割かし、そういう人のほうが全体的な物の見方ができるかもしれないような気もするけれども。

(粕谷悦功委員) 保健衛生協会のそういう講演やっているとかって聞いたことないよな。

(沢井和宏委員) ないですか。

(粕谷悦功委員) ないな。保健衛生協会の職員が健康増進のための講演をしたり何だというのはほとんど聞かないな。健診業務でやっているのはわかるけれども、健診したやつとのデータ関係の蓄積は持っているけれども、ほとんど聞かないな。保健衛生協会の職員で。だから、結局は脳梗塞、心筋梗塞、健康寿命を延ばすという、そのためにはどういうことの取り組みをしていかななくてはいけないよというこの内容を話せるような人でないとうまくないと思うのだ、これは。だから、食にも絡むし、あといろんなだめなことをやったりしては、塩分とか何だとか、食べ物とか、そういうのを変えたりしなくてはいけない、そういうこの内容にかかわってくるのだと思うのだけれども、あと運動とか。そういうものをうまく、こうあるべきだということを言えるような人を選ばないと、委員長報告の中にも入れなくてはいけないから。どうなのだい。わからないな、その辺。

(斎藤正臣委員) 何か保健衛生協会さんのほうでいろいろ実施されていると思うのですけれども、健康課題として明確化にして、これについて取り組んでいこうというような、そういった取り組みをされているのかどうかというところを聞かなければ多分いけないと思うのですけれども、お偉いさんと呼んで、それを本当にわかっているのかどうかというところ、むしろ現場の人の声を聞いたほうがいいのではないかというふうに思うぐらい。ただ、一方で、お達者度の算定についてという医大の資料があるではないですか。これは、もう完全に健康課題というものを明確化するために、まずはその指標としてこういったものを出していこうというところで、ここは多分医大のほうではこれに取り組んでいかなければいけないとか、そういった、この課題を明確にしなければいけないみたいなことが書いてあるわけですから、結構やらなければいけないことというのをはっきりと言えるような段階にあるのではないのかなというふうに医大さんに対しては思うので、その課題という、これから取り組んでいかなければいけないことというのを市のほうに俺らが届けなければいけないと思うので、そういったことを聞く上では、何か医大さんのほうがじっくりくるのかなというふうには思いました。

(萩原太郎委員長) それも非常にいい話が聞けるというふうに思っております。皆さんからの希望で医大の健康増進センターのほうをまず当たってくれというふうなことであれば、そのようにしたいとは思いますが、皆さんからいかがですか。

(小野京子委員) ここでも国の公表した健康寿命の水準を裏づける結果であったということなので、やっぱり健康寿命ということ健康増進センターで考えられて進められていることだと思うので、文章にもあるので、この医大のほうの健康増進センターの方がいいような気がします。健康寿命について聞くのですから。

(萩原太郎委員長) ただいま医科大学の健康増進センターからの参考人招致というようなお話がありましたけれども、そのほかございますか。

(佐原真紀委員) この間、10月ですか、健都ふくしま創造会議というのに参加させていただいたのですけれども、そのときに市長も説明をしたりしたのですが、こういった資料で、例えば皆さん後で回して見ていただくといいと思うのですが、これのメタボリックシンドロームだとか、あとはお達者度の説明とか、あとは歯のこと、がんのこと、喫煙のこと、栄養、食生活とか、総合的な説明をすごくわかりやすくしてくださったのがこの保健衛生協会の方だったので、その方の説明で、それで健都ふくしまを大事にしていこうという話その会議の中でできていたので、そこをシェアしていくべきだなというふうには思っていたのです。

(萩原太郎委員長) そうしますと、保健衛生協会のどなたと申しますか、どの部門の方が来ていただいたとかというのはわかりますか。

(佐原真紀委員) ちょっときょう資料を持ってきていないのですが、家に帰ったらあるのですが。

(粕谷悦功委員) これの全体の取り組みの説明を、この資料の全体の、頭からの流れの説明を保健衛生協会の人やったのか。

(佐原真紀委員) そうです。

(粕谷悦功委員) 全体。

(佐原真紀委員) はい。でも、ちょっと分かれていました、何名かに。

(斎藤正臣委員) その団体の職員さんが全部手分けして……

(粕谷悦功委員) 保健衛生協会だけでやったの。何名かというのは。

(佐原真紀委員) 資料を見れば、お名前まで全部書いてあったのですけれども。

(斎藤正臣委員) あと、当局説明とかぶらないように。

(粕谷悦功委員) かぶる可能性あるな、これ。

(半沢正典委員) だから、先ほど言ったように、聞いてからのほうがいいかなということなのだけれども。多分察するに、この医大のところを見ていると、多分県、その保健衛生協会も福島県だから、これと多分共有しているのかなと。このお達者度から含めて、そこにやったわけでしょう。だから、どっちでも多分同じ形になる気が、今の話しして、してきたのですが。

(粕谷悦功委員) 県がいわゆる健康寿命を延ばそう、いわゆる福島県の心筋梗塞、脳梗塞、これをやっぱりワースト記録を改善しなくてはいけないというところで県が今進め始まっているのだよね。その中で関係しているのは、これ、医大なのかな。どっちなのだい、これ。保健衛生協会も関係しているのか。

(半沢正典委員) やっぱり大もとは医大になるのでしょうかね。組織上。多分。だから、保健衛生協会の下に医大が入るということは考えられないですからね。

(粕谷悦功委員) ここの講義のときに、実態把握は、保健衛生協会、データを持っているから、わか

っているのだけれども、そのために、だからこういう問題はこういうふうにしなくてははいけませんよとか、これはこうやらなくてはいけないよという、そういう提案型もあったのかな、このとき。提案。

(佐原真紀委員) 提案はありました。

(粕谷悦功委員) 食べ物はこうしなくてはいけないとか、そういうのもあったの。

(佐原真紀委員) はい。

(粕谷悦功委員) 塩分控え目だとか。

(佐原真紀委員) そうです。その辺の詳しいお話がそれぞれの方から。

(粕谷悦功委員) それぞれの人。

(佐原真紀委員) はい。

(萩原太郎委員長) 佐原さんは1度それを聞いているというふうなことでお話をいただきましたけれども、どちらも県でやっているというふうな、医大も福島県の保健衛生協会も、公益財団法人ではありますけれども。この2つに絞ったほうがいい、どちらをお聞きしたらよろしいでしょうか。

(粕谷悦功委員) もうちょっと調べて、調査してみたらいい。どっちでもいいよ。そんなこと言われてしまって。

(半沢正典委員) ちょっと話を戻して申しわけないですけども、さっき齋藤委員がおっしゃったように、市で、例えばそれと同じ、全くかぶるような話を当局説明の中で入ってきたら、また同じ話になっても困るのかなど。だから、ある程度市の説明の概要を把握した上、聞く前でもいいですから、把握した上で聞くぐらいの、今粕谷委員おっしゃったように、今でなくてもいいのでないのという話が多分それだと思うのですけれども。

(齋藤正臣委員) 加えて、医大と衛生協会、それぞれがどういったお話ししていただけるのかということも……

(萩原太郎委員長) 事前に……

(齋藤正臣委員) わからないとやっぱり選べないのかなというふうなところではありますし。同じだったら。

(萩原太郎委員長) わかりました。事前に内容を打診する、そしてまた当局説明の内容のほうも打診して、どんな内容なのか。同じ話を2回聞くというふうなことでなくというふうなことであれば。

(沢井和宏委員) 逆に、こういう話を聞きたいという、今話が出てきた健康寿命を延ばすために、お達者度を延ばすために、福島県が多い心筋梗塞や脳梗塞を減らすための食生活の改善についてと、そういうキーポイントで、そこでどういう取り組みができるかと、その1点に絞って例えばお話を聞くということで依頼をして、こちらからそういうお話ということで依頼する方法もあるのかなど。

(半沢正典委員) 本来はそうなのですよ。副委員長がおっしゃったとおりだと俺も思います。テーマ、具体的に投げかけてあげないといけないでしょうということ、まさしくそのとおりで、要する

にそのときに、要するに何を言いたいかという、当局説明はどういうような話で、かぶらなければいいなど。沢井副委員長がおっしゃるぐらいに細かくもう初めから言うのであればそれでいいのですけれども、ただ今の時点でそこまで細かくできないのでということで発言ちょっとさせていただいたと。

(粕谷悦功委員) これ幅広いのだよな。

(半沢正典委員) そうなのですよ。傾向ですからね。

(粕谷悦功委員) 食生活改善だけではないのだよ。地域活動なのだよ。行政と地域が一体となってそういう健康づくりというのを進めなくてはいけない話になってくるのだよ。これ長野県とかみんなそうだからね。

(沢井和宏委員) 多分行政からはそういう幅広い取り組みというか、これしたい、あれしたいという多分当局からの説明は出てくるのだろうと思う。だから、もうちょっと違う角度で、学識経験者にお話を聞くという部分で、ちょっと医学的な食生活と体の、健康づくりの関係だけ、そのピンポイントでお話を聞くということで絞れば、多分もしかすると福大とか桜の聖母とか学院大の先生の中でもそういう話はできると思う。ただ、上の3つは多分行政の施策として何か出てくるわけではないと思うので、そこはあらかじめ、それでもよければ、そういうお話の依頼の仕方もあるのかなんと思ったのですが。

(粕谷悦功委員) これ栄養士なんていうの、これ栄養専攻なんていうのだって、塩分控え目と、そんなものしか出てこないぞ。

(半沢正典委員) そこに落ちついてしまう。

(粕谷悦功委員) 食べ物で、野菜食えとか、青物食えとか、青魚を食え、それしか出てこないでしょう。新しいことは出てこない。

(佐原真紀委員) この上の3つでいうと、福島大学では食農学類が始まる前からずっと発酵と菌のことについての講演とかを続けていらしたのです。全国からいろんな発酵の専門家とかを呼んでの講座をやっています、福島ではそれを進めていくべきなのではないかと私個人は今までに思っていて、山梨県も甲府市というのがすごく発酵フェスティバルを市全体で取り組んでいるのです。発酵の文化を進めていくことで健康につながるというのを山梨はずっとやってきていて、そういったところになるのかなとは思いますが、関心あるとしたら。

(萩原太郎委員長) そういう専門分野の先生のお話を聞くということですか。

(佐原真紀委員) 食の部分でとなると。

(粕谷悦功委員) どうかな。食生活の中だから、そういうのは全て入ってくると思うのだよな。塩分控え目とか、発酵食品を食べたほうがいいのだとか、そういうことの内容は健康増進のためにやっぱりそういう話いっぱい出てくると思うよ。発酵食品だけ食ったって寿命は延びないよ。

(佐原真紀委員) だけではだめですね。

(萩原太郎委員長) どうでしょうか。24日の日の市の話を聞いてから、その後というふうな部分で、現実的には間に合いませんか。

(半沢正典委員) 間に合わないでしょう。

(粕谷悦功委員) 事前調査だから、2つくらい、保健衛生協会と医大でしょう。この2つあたりを事前にちょっと調査して、いいなというほうを選んだらいいのではないの。両方同じかもしれないのだから。

(半沢正典委員) だから、逆に正副委員長で当局説明の内容、こんな感じになりますよと、これを詳細について説明する予定ですよというような話を聞いた上で、ちょっと絞った中で提案してもらったほうが、次の当局説明の前に。そうすると、我々も、こういう議論を抜きにして、大体、ではこれだね、あれだねという話に決めやすいのではないかなというふうに私は思うのですけれども、どんなものでしょうか。

(粕谷悦功委員) これまとめるのは委員長なのだから、委員長がまとめやすいような人にやっぱり講演聞かないと、講演ではない、参考人招致しないと。

(萩原太郎委員長) そうなのですけれども。そうしましたら、今のお話をお聞きしまして、それから保健衛生協会、そして健康増進センターも、ちょっとどんな話を伺えるのか聞いて、それにつきましては12月の議会の後の委員会の後にお話、時間とらせてもらうということでもよろしいですか。それでしたら時間的なことにも間に合うということでもよろしいですか。

(半沢正典委員) 本会議でどうせ来ていますから、本会議終了後、それだけのためにちょっと集めていただいても別に。

(粕谷悦功委員) こういうことからこれがいいと思いましたがといえばいいだけだ。

(萩原太郎委員長) わかりました。

(半沢正典委員) さっき副委員長がおっしゃったような形のご提案いただくと、非常に決めやすいかと。

(萩原太郎委員長) では、そのようにさせていただくことにいたします。

また、参考人招致の日程につきましては、来年1月に開催を予定しておりますが、開催日日程につきましては委員会終了後、別途調整させていただきます。

次に、その他ですが、委員の皆様から何かその他としてございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) なければ、以上で本日の文教福祉常任委員会を終了いたします。

午後2時11分 散 会

文教福祉常任委員長

萩 原 太 郎